

## 地域や社会と連携した活動

思いやりや感謝の心もち、誰にでも優しく温かく接することのできる児童や自分の考えに自信もち、主体的に他者に関わることでできる児童を育成するため、さまざまな方々の協力を得て、学校教育に取り組んできました。

### 地域の教育力を生かした取り組み

#### 1・2年生 音楽コンサート



コンサートを鑑賞するのは初めての児童が多く、バイオリンとピアノの生演奏を夢中になって聴いていました。実際に、リズム遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく音楽に親しむことができました。

#### 2年生 町探検



校区内の9店舗にご協力をいただき町探検を行いました。また、多くの保護者ボランティアの皆さんにもお力添えをいただきました。

#### 3年生 モノ+ガタリプロジェクト



総合的な学習の時間に、「モノ+ガタリ」プロジェクト「からくりカイゼン」の学習を企業の方を講師にお招きして行いました。実際からくりの仕組みを間近で見たり、「てこの原理」を用いたゲームを通して試行錯誤しながら課題に取り組んだりしました。

#### 4年生 福祉実践教室



弥富市社会福祉協議会の協力を得て、福祉実践教室を行いました。初回は「福祉講話」と「車いす体験」の2講座、2回目は「視覚障害者の体験」と「ガイドヘルプ体験」、「点字」、「手話」などの4講座を行いました。人生に対して前向きに考え、できる活動に取り組んでいくことを目指し、実践教室を行いました。

#### 5年生 モノ+ガタリプロジェクト



(株)名鉄グランドホテルの方をお招きし、「和食の作法～調理実習・実食と食事のマナー講習～」の授業を行いました。職人の方の包丁さばきを間近で見ることができました。プロの技を見て学ぶ、貴重な学習となりました。

#### 6年生 証券会社出前授業



日本証券業協会から講師をお招きし、「チャレンジお菓子の株式会社」の授業をしていただきました。「会社ってなんだろう」「力を合わせて新しいお菓子を考えよう」「商品パッケージをつくってみよう」をテーマに企業の活動について考えたり、「応援したい会社」に投資する体験をしたりして、消費者の目線と企業の目線で学びました。

### 児童会活動 「届け!感謝の気持ち! 医療従事者の方々へ!」



桜小学校の目の前には海南病院があります。日頃から検診やけがをしたときの対応など大変お世話になっています。児童会の発案で、新型コロナウイルス感染症対策の最前線で働いてみえる方々へ感謝の思いを届けるために、メッセージづくりに取り組みました。掲げたメッセージは一つですが、4年生以上の子どもたち一人ひとりがメッセージを考えました。そして、全学級が文字の色塗りに関わりました。子どもたちの感謝の思いが届き、海南病院の皆さんからもお礼のメッセージが桜小に届きました。温かい思いの交流となりました。

### 「当たり前の世の中」

弥富中学校 岡田 奈々

#### 【被爆体験伝承講話】

広島市から20km離れた場所で働いていたしゅんちゃんは、つらい仕事のご褒美に両親のいる広島市へ帰れるという日が、広島に原爆が落ちた、8月6日でした。しゅんちゃんたちは広島行き午前8時38分発の電車に乗りました。電車は広島まで行きませんでした。しゅんちゃんたちが乗った駅の次の駅で電車は止まりました。しゅんちゃんたちは報告書を見せて、爆心地の広島へ向かいました。被爆して皮膚が溶けて垂れ下がった人が恨めしやという手をして歩いていました。やっとの思いで再会した両親はハリネズミのようにガラスの破片が刺さり、血まみれだったそうです。しゅんちゃんは75年経った今、放射線の影響で5回もがんになりましたが、手術を受け、生き延びてきました。今年、6つ目のがんが見つかり、もう手術は無理だと言われました。75年経って、被爆を経験した方々がたくさん亡くなっています。それと同時に戦争を知らない人が増えてきています。しゅんちゃんは家族や友達に戦争の悲惨さについて話をすることで、バトンを渡してほしいと思っています。

#### 【被爆体験伝承講話を聞いて】

私は、被爆体験伝承講話を聞いて、やっぱり人々が不幸になる戦争は起こしてはいけないと思いました。しゅんちゃんからバトンを渡され、それを渡す…。世界には13,600発以上の核兵器があるとのこと。戦争を二度と起こさないために、人の心を鬼にする戦争をなくすために、わたしはしゅんちゃんから「戦争は嫌だ」ということを教わりました。しかし、私はその言葉だけで戦争をなくすことができるのか?と思いました。私は、平和について考える学習の中で被爆体験伝承講話が一番心に残りました。アメリカからの原子爆弾のせいで、広島の方々はずいぶん目に遭い、トラウマもあるのに、私たち、後世の人間に過去の話を話して下さって、感謝の気持ちでいっぱいです。原子爆弾は人を一瞬で形のないものにしてしまう怖いものと改めて思いました。今の世界、また、これからの世界の人々は、今、戦争をしない限り戦争の恐ろしさを知らずに生きていくことになる。平和がどれほど当たり前ではなかったか。後世にその恐ろしさを伝えるために、私は被爆体験伝承講話の方から受け取ったバトンを、また、次の人々に渡していきたいと思いました。



### 「平和について」

弥富中学校 三方 果凛

#### 【被爆体験講話】

1945年8月6日午前8時15分、上空600メートルぐらいのところで原子爆弾が爆発しました。直径400メートルほどの雲が上がり、原子爆弾の発した熱は3000～4000度にもなりました。

小学生は学童疎開をしており、中学1年生や2年生は勉強をやめて、空き地を作り、農作物を育てていました。戦争中には食料が不足するので、すごく大切な仕事です。そして8月6日には、一生懸命仕事をした人は広島に帰ってもよいということになりました。しかし、8時15分に大きな音がして、辺りがギラッと光り、赤く染まり、煙が広がっていました。広島にいた人たちはみんな逃げきて、次々に人が倒れていきました。家は、屋根がつぶれたり、木造の家は焼けて、なくなりました。人々は服が焼け、ガラスが突き刺さり、血だらけになり、皮膚は垂れ下がっていました。被害はこの戦争が起きたときだけでなく、数十年も経ってから放射線を浴びた後遺症として、がんなどの病気が見つかることもありました。

#### 【感想】

私は、最初は戦争について全く知りませんでした。戦争はそのときだけの被害だと思っていたけど、数十年経ってから病気になることもあと知りました。戦争直後の様子なども考えたことはなかったけど、写真や絵を見て本当に怖くなりました。被爆した人は一生心と体に残る傷を負ったのだと改めて知り、一生戦争が起こらない世界になってほしいと強く感じました。

